

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日市立春日西中学校（福岡県）【指定校】

＜校務利用＞ ⑥Excelで活用する関数や、VBAプログラムの作成支援

VBAプログラム作成のプロンプト

命令書

貴方は、プロのExcelの講師です。以下の制約条件に従って、関数を教えてほしい。

制約条件

- [] 私はExcelの初級者です。初級者にもわかるような表現で具体的に説明してほしい。コピー貼り付けだけすばいように指示してほしい。

- [] aの個数、bの個数、cの個数の条件に従って、“A”、“B上”、“B中”、“B下”、“C”を割り当てる。なお、a,b,cの順番は影響しない。

パターン

1. aaaaa”A“ 2. aaaab”B上“ 3. aaaac”B上“ 4. aaabb”B上“
5. aaabc”B上“ 6. aaac”B中“ 7. aabbb”B中“ 8. aabbc”B中“
9. aabcc”B中“ 10. aacc”B中“ 11. aabbbb”B中“ 12. aabbbc”B中“
13. abbcc”B中“ 14. abccc”B下“ 15. acccc”B下“ 16. bbbbb”B中“ 17. bbbbc”B中“ 18. bbbcc”B中“
19. bbccc”B下“ 20. bcccc”B下“ 21. ccccc”C“

- [] 5つのセルの中の個数を合計して、所定のセルに“A”、“B上”、“B中”、“B下”、“C”を割り当てる。

- [] 出力する場合は、コピー貼り付けをすばいだけにしてほしい。

- [] 最高の成果を出すために情報が他に必要ならば、私に質問をしながら進めてほしい。

出力関数

ChatGPTが作成したVBAプログラム

(前略)

ステップ1: 条件の数を数える
まず、5つのセルに含まれる'a'、'b'、'c'の数をそれぞれ数えます。これには「COUNTIF」関数を使用します。
例えば、セルA1からE1に'a'、'b'、'c'が入っていると仮定します。それぞれの文字の数を数えるためには、次のように書きます:

- Aの数: `=COUNTIF(A1:E1, "a")`
- Bの数: `=COUNTIF(A1:E1, "b")`
- Cの数: `=COUNTIF(A1:E1, "c")`

これらの関数をF1、G1、H1などのセルにそれぞれ入力します。

ステップ2: 条件に基づいて値を割り当てる
次に、「IF」関数を使って、カウントした数に基づいて“A”、“B上”、“B中”、“B下”、“C”を割り当てます。
たとえば、このルールに基づいてI1セルに関数を設定します。この関数は複雑に見えるかもしれませんが、基本的には一連の条件をチェックして、それぞれに合った値を返します。

例:
`=IF(AND(F1=5), "A",
IF(OR(AND(F1=4, G1=1), AND(F1=4, H1=1)), "B上",
IF(OR(AND(F1=3, G1=2), AND(F1=3, G1=1, H1=1), AND(F1=3, H1=2)), "B上",
IF(OR(AND(F1=2, G1=3), AND(F1=2, G1=2, H1=1), AND(F1=2, G1=1, H1=2), AND(F1=2, H1=3)), "B中",
...以下略...`

この例では、`F1`、`G1`、`H1`がそれぞれ'a'、'b'、'c'の数を表しています。

コピー&ペースト

これらの関数は一度設定すれば、その他のセルにコピー&ペーストするだけで同じ計算を行えます。関数をコピーして、別の行の同じ位置にペーストするだけで、新しい行の値に基づいて結果が計算されます。

(後略)